

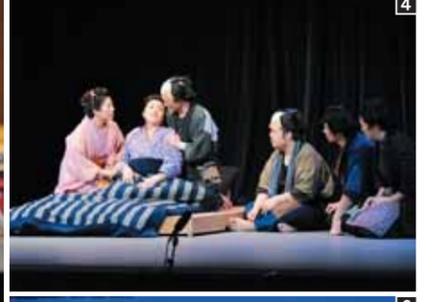


❶冷害で米の不作に苦しむ村人たちは、東京から来た又吉に娘の出嫁ぎを持ち掛けられる。ゆきの父年男も、ためらいつつも病気がちな母のために… ❷東京への憧れを胸に上京するゆき、多江、スミ ❸勤め先の料亭で歓待された3人だったが、翌朝に主人の態度が一変。「金で買ったのだから」と朝から晩まで働かされる ❹1年が過ぎ、体の弱いスミは倒れてしまう。励ましあう3人に、年男の手紙が遠い故郷への思いを募らせる ❺料亭の火事の際に逃げ出し帰郷したゆきは、家族との再会を喜ぶ ❻観客席にあふれた笑顔と拍手

第28回奥州胆沢劇場「ふるさとの香り」は2月26日、胆沢文化創造センターで開催され、2回公演に計1200人の観客が来場し、市民手作りの舞台を堪能しました。今回の作品は、昭和9年の東北大飢饉を題材としており、テーマは「希望」。家族のために上京した出嫁ぎ先で帰郷を願う娘たちを通して、ふるさとへの思いや家族の絆、明日への希望を描いたものです。この日は、東日本大震災からの一日も早い復興を願い、陸前高田市から50人を招待。同市と大船渡市からのキャストも加えた総勢126人の手によって作り上げられた舞台に、会場は感動の渦に包まれました。

# ふるさとの香り

第28回奥州胆沢劇場



# 算豪の道

和算と人心の物語

第12回奥州前沢劇場

第12回奥州前沢劇場「算豪の道」和算と人心の物語は2月19日、前沢ふれあいセンターで上演されました。午前十と午後、2回の公演で詰めかけた計800人の観客が、感動の舞台を楽しみました。今回の作品は、前沢区（赤生津地区）に実在した和算家鈴木訓一をモデルとしたもの。江戸時代末期、百姓の子弥一は、両親を失ったと知り、「和算」の道へ進む。その幼き日の思いを忘れて研究に没頭する弥一が、出生の秘密が明らかされるとともに、人と人とのつながりの大切さ、家族への愛を取り戻す感動の物語です。詰めかけた観客は、出演者たちの熱演に、惜しめない拍手を送っていました。

❶和算に興味を持った弥一。父弥助は百姓に学問は不要だと、弥一の話に聞く耳を持たない ❷弥一の熱意に負け、弥助は元親への弟子入りを許す ❸弥一は和算道場の先生に。しかし、明治政府は和算を禁じた。弥一は和算の力を証明することを誓う ❹弥一が見舞いにも訪れないまま、母たきは逝ってしまう ❺自分の出生の秘密を知る弥一。和算に心奪われ、亡き母たきを見舞わなかったことを悔やむ ❻和算は技術、それを生かすのが人の道と悟った弥一。己への戒めを込め、和算の問題と解答を記した「算額」を月山神社へ奉納する